

JACD ----- No.37 ----- 10.1.2004

Newsletter

発行所

日本歯科色彩学会

発行人 片山伊九右衛門

〒350-0385 埼玉県朝霞市井ヶ谷1-1

朝霞大学歯学部保存修復学講座内

日本歯科色彩学会事務局

TEL 049-294-5429

FAX 049-294-5931(9時~18時)

<http://www.colortraind.co.jp/jacd.htm>

E-mail: skoson@tbl.ac-cat.co.jp

学会の一層の活性化のために

日本歯科色彩学会会長 片山伊九右衛門

本会は1993年11月、研究会として第一回の学術大会を開催して以来、はや11年を過ぎました。第12回学術大会の16年度総会において、はからずも継続して本学会長として重責を担うことになってしまいました。若い方への執行部移管が私の本心からのせつない望みでありました。

幸いにして久光久氏・元呑昭夫氏・細矢由美子氏の3名の副会長、さらに総務、会計、学術、編集、渉外の各部門で執行部を支えていただいている方々の力を得て頑張ります。

本学会の目的は会則にみられるように“色彩についての基礎的学術を基とし、歯科色彩に関連した問題を追及しこれを通じて歯科医学、歯科医療などの発展に貢献するとともに、会員相互の親睦を図ることを目的とする”とあります。具体的には会員相互の連絡、研究の促進、知識・情報の交換、学術の振興を計るために協議する専門研究者の団体であります。さらに加えれば、色彩を通じ心豊かになることと思えます。

創設当時の本学会の最初の取組みは、お互いの情報交換と初心者入門を開くこと、そして他の学会との協調を活動の基本としたことが思い出されます。今回考える追加項目は以下の通りであります。

1、会の運営を設立時代の初心に戻す。

研究会時代には、皆が本学会に望んだように、多方面の専攻領域からの研究者の有機的な相互刺激および理想的な学際的雰囲気が溢れていました。原点に戻る必要があります。そのためには初心者に対する色彩講座や見学会などをさらに進めたいと思います。また、全員が「言いたいことが言える」会にしたいものです。私自身も、多くの色彩についての論文を発表してきました。今思えば慙愧にたえない論文を得意になっていたものもあります。CIE表色系は、色表示の客観的方法と思っていました。色差においても、物理的な測定とその数値的評価と、そのような色差の肉眼による識別との関係の二つの要求が満たされなくてはならないことが理解できてきました。歯科で使われる測色法、表色法、色差などが、果たして歯科に適したものか疑問に思えるようになりました。歯の色名を適切に言い当てることのできないのも現実です。確立した歯科色彩学を皆様で追及したいと期待するものです。

2、歯科医学卒前教育への色彩学の導入。

日本歯科審美学会が審美学の教授要項を作成しました。審美の中には色彩の地位は当然大きいものです。そこで本会ではさらに専門的な色彩についての教授要項を作成し、陶材やコンポジットレジン、歯、歯肉、唇などの色彩を扱う歯科医師・技工士・衛生士への色に対する基本的事項だけでも、是非学習を推進するように本学会としても働きかけたいものです。

3、国際的な視野に立つこと。

中国では本会の共催のもと、すでに北京、南昌、厦門、北京、そして今年はウルムチで第5回国際口腔色彩学術会議が開催され、中国各地からの一般発表がありました。今や世界的に歯科色彩学の研究が多いと聞きます。本学会が井戸の中の蛙とは申しませんが、狭い範囲から脱却し、さらには欧米にも国際的にも交流すべきだと思います。

4、インターネットの活用

役員会議などでは、ホームページを利用し、会員相互の意思の疎通および時間の無駄を図りたいものです。

以上、学会の一層の活性化のために、改めて会員皆様のご支援をお願いする次第です。

2004年8月

第12回日本歯科色彩学会学術大会を終えて

大会長 池見 宅司

日本大学松戸歯学部保存学Ⅰ講座（保存修復学）

第12回の学術大会を無事終了することができ、今はホッとしております。全て、参加された皆様のおかげであると、非常に感謝しております。今回は新しい試みとして、会員の先生方に色彩涵養大会というゲームをして頂きました。その企画の良し悪しは別として、滞りなく楽しくゲームを終了できたことと、色彩学講習会でされている訓練の一部であることを皆様にご紹介できたことでその使命が果たされたような気がしております。また、学術大会では”歯科医学が発振する色彩学”をテーマとして、皆様が真剣に発表を聞かれている姿に感動いたしました。

特別講演におきましては、長崎大学歯学部の飯島洋一先生に統計学のお話を頂き、昭和大学歯学部の東光照夫先生には漂白歯の色に関するお話を頂き、今後の研究の糧になったのではないかと想像しております。

口頭発表では、入院中にもかかわらず車椅子で発表して下さった山口先生には頭が下がる思いです。さらに、北京大学から王新知教授、高承志助教授、王靖医師、西安から第四軍医学の郭天文教授が参加して頂き、王新知先生にはポスター発表もして頂きました。中国は経済だけでなく研究面でも注目されており、この様な国際交流ができたことは非常に有意義であったと考えております。

発表形式は全てパワーポイントで統一し、スライドは使用しませんでした。今後は、いずれの学会においてもこの様な形式となるものと思います。コンピュータの違い、バージョンやソフトの違い、さらにはウイルス感染の問題等を心配しておりましたが、演者の先生方のご協力を得て滞りなく進行できたことは、主催者側として胸を撫で下ろしております。

そして、ポスター発表と業者展示では発表・展示数の関係で一つ一つについて発表して頂きました。発表・展示数が多くなると時間的に不可能とも思われましたが、発表者が実験等で苦労された内容を参加者全員の前で報告できたことは、学術大会を充実させる意味からも、我田引水ではありますが、良かったのではなかったかと考えております。その発表の際に、ほとんど全員の参加者が席を立つこともなく発表を聞かれていたことは、色彩学をもっともっと勉強しなければとの意識を会員の皆様が持っておられるのではないかと思われました。この様な会員の皆様の熱心さを拝見して、私は、今回のテーマを”歯科医学が発振する色彩学”としてよかったと思い、本学会を拠点として歯科医学はもちろんのこと、その他の多くの分野でその学問が利用されるようになれば素晴らしいことではないかと思いました。

今回の学会にご協力いただいた業者の皆様感謝いたしますとともに、事務局として口腔保健協会のご協力を得て無事終了できましたことを、実行委員長の河野善治をはじめとした医局員一同に代わりまして御礼申し上げます。

－色彩感覚涵養大会で会員の、能力向上図る－

（日本歯科新聞 8/24 号記載）

日本歯科色彩学会（片山伊九石衛門会長）の第12回・学術大会（大会長 池見宅司日本大学松戸歯学部教授）が7月24、25の両日、東京のアルカディア市ヶ谷で開かれた。

初日には会員の色彩感覚を向上させる試みとして色彩感覚涵養大会が行われ、上位入賞者には懇親会の席上で豪華商品が手渡された。

学術発表では学生に対する色彩教育、コ・デンタルスタッフのユニフォームの色彩に関する調査、歯科材料や口腔組織の測色法、色彩分析、色彩管理、色の再現性、見えの評価、色彩学の臨床応用など色彩に関して幅広い分野の研究報告がされた。

一方の一般発表では、参加者の投票により優秀発表者が選出された。特別講演では長崎大学医歯薬学総合研究科の飯島洋一先生が「歯の色における統計学的アプローチ」で、昭和大学歯学部の東光照夫先生が「歯の色の評価と漂白法」でそれぞれ話した。業者展示にも発表の時間が設けられ、各社熱弁を奮い、ユニークな商品案内を行った。

口腔組織の色彩を理解し、その知識を臨床に役立てる。口腔の健康増進に寄与する上で本学会の意義は大きい。今後の発展に期待したい。

（筆者＝長崎大学医歯薬学総合研究科・細矢由美子副会長）

日本歯科色彩学会 平成16年度 総会 式次第

日時：平成16年7月25日（日） 9：30－10：30

場所：アルカディア市ヶ谷

敬称略

- I. 開会
- II. 大会長挨拶
- II. 会長挨拶
- III. 議長 天野義和、議事録署名人 大西孝宣、岩崎嘉代を選出
- IV. 報告事項

1. 総務・庶務報告
2. 会計現況報告
3. 編集委員会報告

次号：2004年11月8日演題締め切り
2004年12月6日原稿締め切り

4. 渉外報告
5. 学術委員会関係報告
 - 1) 優秀論文・一般発表優秀者の選定について(別紙参照)
 - 2) 17年度第13回・18年度第14回学術大会について
17年度は大阪歯科大学技工士専門学校末瀬一彦校長
18年度は奥羽大学歯学部天野義和病院長
 - 3) 講習会(別紙参照)
 - 4) 見学会はニコン社に交渉中
6. 認定士委員会(講習会として別紙参照)
7. 用語委員会 用語集はまもなく発行する
8. その他 省略

V. 審議事項

1. 平成15年度決算について(別紙参照)
 2. 平成16年度事業計画について(別紙参照)
 3. 平成16年度予算について(別紙参照)
 4. 役員選出について
 - 1) 会長・副会長、監事、他の役員は継続
 - 2) 追加常任理事推薦：勝海一郎、木暮ミカ、堀田正人、桃井保子
 - 3) 追加理事推薦：英保武志、金子 潤、久保茂正、高宮紳一郎、中城基雄、
平井義人、宮田 侑
 - 4) 追加評議員推薦：海老原 隆、鬼遊祐一、大金 誠
- 以上 1－4号議案はすべて承認された

VI. 閉会

13回次期大会長 末瀬一彦先生 あいさつ

次回、第13回学術大会のご案内

来年度第13回日本歯科色彩学会は大阪歯科大学病院（大阪城近くの天満橋）で開催されます。あいにく7月25日前後は天神祭りで大変混雑、7月中旬を考えております。

大会長は末瀬一彦大阪歯科大学歯科技工士専門学校長、準備委員長は大本吉昭先生、副準備委員長は仲宗根幸男先生です。末瀬先生は全国歯科技工士教育協議会の会長でもあり非常にお忙しい方ですが、学術大会を引き受けてくださりました。付属病院には温泉がコンコンと湧いており、入湯もできます。

以上について、問い合わせは日本歯科色彩学会事務局まで。他なんでも気軽にご相談下さい。
FAX 049-294-5455 メールアドレス ikueemon@fb3.so-net.ne.jp

2004年度「歯科色彩学会・色彩学講座」

開催日時：平成16(2004)年10月23日(土)、24日(日)午前9時～午後5時

開催場所：学校法人阪勉学園・埼玉歯科技工士専門学校 <http://www.dtc.ac.jp/guidance.html>

埼玉県さいたま市見沼区東大宮 1-12-35

募集・定員：40名以内先着受付順

日本歯科色彩学基礎理論講習内容

1. 歯科のための色彩
3. 色彩感覚応用① 色差感覚、HV/C 感覚, 色彩弁別
4. 色彩感覚応用② 偏色判定
5. 色彩感覚応用③ デンタルシェードマッチング
6. カラーデバイス理論
7. カラーマネージメント
8. 最新測色器機能動向
9. 色感テスト実技

※準備するもの筆記用具、ノートPC(Excel 利用)、電卓も可

募集要項・参加申込先

日本歯科色彩学会・講習会担当宛電話ファクスおよびメールで
カラーランド研究所内日本歯科色彩学会講習会担当

電話 048(811)1911 FAX 048(811)1912 Email:jacd@colorland.co.jp

〒336-0931 さいたま市緑区原山 1-25-25

参加費用：会 員・賛助会員・学生 3万5千円 (実技試験費用 5千円含む)

非会員 5万5千円(実技試験 5千円含む)

振り込み先銀行：みずほ銀行大宮支店さいたま新都心出張所(店番号9)

日本歯科色彩学会講習会口座番号3213188

本講習会は日本歯科色彩学会会員が認定資格審査請求において必要な証を発行いたします。またすでに資格のある認定士は歯科の色彩に関する指導的立場から更に必要な色彩基礎の講座内容を学ばれることをお薦めいたします。詳しくは「歯科の色彩・機関誌」認定士資格審査要項をご覧ください。

新入会員の紹介

16年7月からの入会会員です。(敬称略)

氏 名	所属先〒	所 属 先 住 所 ・ 所 属 先
平井 義人	261-0066	千葉県美浜区真砂 1-22-2 東京歯科大学歯科保存第3講座
天谷 哲也	261-0066	千葉県美浜区真砂 1-22-2 東京歯科大学歯科保存第3講座
中澤妙衣子	261-0066	千葉県美浜区真砂 1-22-2 東京歯科大学歯科保存第3講座
関 真生子	104-0061	東京都中央区銀座 3-2-1 プランタン銀座本館 5F 医療法人社団美博会 フランシュールデンタルクリニック
王 新知	中国 00081	中国・北京市海淀区魏公村 北京大学口腔医学院修復科
笹原 慶重	271-8587	千葉県松戸市栄町西 2-870-1 日本大学松戸歯学部口腔診断学講座
小椋佳代子	104-0045	東京都中央区築地 2-4-3 すみれ歯科クリニック
花田 晃治	950-2086	新潟市真砂 3-16-10 明倫短期大学
下河辺宏功	950-2086	新潟市真砂 3-16-10 明倫短期大学
大川内 誠	177-0051	東京都練馬区石神井台 3-24-20

種別	種別	2004年度収入	2003年度収入	前年度比増減率	純利率	備考	
会 費	1. 会費収入	200,000	200,000	100.0%	48%		
	2. 会費引当金	50,000	50,000	100.0%	48%	10,000を引く	
	3. 雑収入	200,000	400,000	100.0%	48%	10,000を引く	
	4. 雑引当金	0	0	0	-		
	義 務 員	1. 義務員会費	0	0	0	-	
		2. 会費	0	0	0	-	
		3. 雑収入	0	0	0	-	
		4. 雑引当金	0	0	0	-	
	理 事	1. 理事収入	0	30	0.0%	-	
		2. 雑収入	0	30	0.0%	-	10,000を引く
		3. 雑引当金	200,000	200,000	100.0%	48%	
	総 計	1,000,000	1,000,000	100.0%	48%		

種別	種別	2004年度収入	2003年度収入	前年度比増減率	純利率	備考	
会 費	1. 会費収入	200,000	0	0.0%	0%		
	2. 会費引当金	100,000	0	0.0%	0%		
	3. 雑収入	150,000	0	0.0%	0%		
	4. 雑引当金	70,000	0	0.0%	0%		
	義 務 員	1. 義務員会費	400,000	0	0.0%	0%	
		2. 会費	60,000	0	0.0%	0%	
		3. 雑収入	60,000	0	0.0%	0%	
		4. 雑引当金	60,000	0	0.0%	0%	
	理 事	1. 理事収入	20,000	0	0.0%	0%	
		2. 雑収入	20,000	100,000	0.0%	0%	100,000を引く
		3. 雑引当金	60,000	0	0.0%	0%	
総 計	1,000,000	1,000,000	100.0%	0%			

平成16年度 事業計画

1. 総会・学会大会の開催
2. 雑誌の発行
3. ニュースレターの発行
4. 会員の増強促進
5. 優秀論文、優秀研究発表の表彰
6. 認定士制度の充実
7. 講習会の充実
8. 色彩関係の研究所見学の施行
9. 歯科色彩学用語集の発行
10. 歯学部および歯科技工士専門学校、歯科衛生士学校における歯科色彩学教授要項の作成およびカリキュラム導入を促進
11. 会員の歯科色彩学業績集の作成と会員相互交流の促進
12. 国内、国外との学术交流の促進
13. その他

2004年 役員名簿 (敬称略・50音順) 下線は今回の総会で承認された追加役員

- 会 長 (1) 片山 伊九右衛門
 副会長 (3) 久光 久 元吞 昭夫 細矢 由美子
 監 事 (2) 神津 瑛 生田 博康
 常任理事 (15)
 天笠 光雄 池見 宅司 伊集院 正俊 片山 直 勝海 一郎 加藤 喜郎
 桑田 正博 木暮 ミカ 阪 秀樹 東光 照夫 中澤 章 堀田 正人
 宮崎 隆 向山 賢一郎 桃井 保子
 理事 (41)
 英保 武志 天野 義和 甘利 光治 市村 葉 荊木 裕司 小野瀬 英雄
金子 潤 鎌田 政善 川添 堯彬 鬼島 成和 久保 茂正 河野 篤
 斎木 好太郎 齊藤 誠 佐々木 重夫 新海 航一 末瀬 一彦 鈴木 伸宏
 関根 一郎 高橋 洋子 高宮 紳一郎 竹内 操 寺川 國秀 寺下 正道
 永澤 栄 中城 基雄 長浜 九十九太郎 中山 友克 橋口 英生 坂 清子
平井 義人 藤井 輝久 細田 幸平 松浦 智二 松尾 通 宮田 佑
 村井 宏隆 山口 龍司 山崎 信夫 山田 和伸 吉田 周平
 評議員 (27)
 五十嵐 洋 伊比 篤 岩崎 嘉代 海老原 隆 江間 誠一郎 大金 誠
 大西 孝宣 小川 恵治 片岡 繁夫 加藤 愛子 神田 充 久下 靖征
 小坂橋 誠 後藤 邦之 斉藤 晶夫 佐々木 一高 佐藤 穂子 進藤 聖士
 末永 和弘 鈴木 純二 田村 勝美 中浦 清人 野島 洋 三次 義和
鬼遊 祐一 吉野 諭 吉村 浩一
 名誉会長 (1) 橋口 紳徳
 名誉会員 (2) 和久本 貞雄 腰原 好
 幹 事 (2) 森 純信 山鹿洋一

16年度総会において優秀発表および優秀論文の表彰式が挙行されました。

★ 第11回日本歯科色彩学会学術大会優秀発表演題

「着色象牙質に対するオペークレジンの遮蔽効果」

日本大学松戸歯学部 塚原 梢先生

「無髄変色歯の新しい漂白法の検討」

昭和大学歯学部 遠藤丈彰先生

第11回日本歯科色彩学会学術大会（片山 直大会長）の会場にアンケート用紙を用意し、そのアンケートの集計を元に、その時の大会長が選考し、次回総会で表彰することになりました。第12回日本歯科色彩学会学術大会（池見宅司大会長）総会において、表彰状が手渡されました。大阪における第13回日本歯科色彩学会学術大会（末瀬一彦大会長）では、ご発表くださり選考に挑戦ください。

★ 優秀論文

「オペークレジンに関する研究—着色象牙質に対する遮蔽予測法の検討」 歯科の色彩⑩から

塚原梢、木村大、平山聡司、河野善治、元呑昭夫、池見宅司 各先生

次の雑誌は2005年3月発行の予定ですが、締め切りは2004年11月8日です。奮って投稿し、優秀論文に挑戦ください。

日本歯科色彩学会・用語委員会からお知らせとお願い

すでに第12回日本歯科色彩学会学術総会においてご報告しましたように、本年10月末に発行予定「歯科の色彩用語—用語委員会編」の刊行にあたり、本学会員の皆様へお知らせ申し上げますと同時に会員皆様のご意見を承るべくお願いの方々ご報告いたします。

本書「歯科の色彩用語—用語委員会編」は、「歯科の色彩」既刊と対をなすべく当初企画され鋭意用語委員会により編集をすすめておりましたが、この度ようやく発行の体裁が整いました。

歯科の色彩に係る用語は色彩の初学者と研究者に役立てることを目的に作成しました。しかしデジタル画像、光工学の世界的な潮流など目まぐるしく変化する色彩の技術は歯科における色彩関連用語においても必要と考えられます。このことはコンピュータを介して処理する画像データの色彩として用語に反映させることとなりました。これは既知の色彩技術との整合性を要求することでもあります。

色彩に関する用語は言語、文化から派生していることはご存じの通りです。従って本来歯科における色彩専門用語というよりは基本語彙として取り扱い用語は色彩表現のための色名など幅広く取り入れさらに色彩の専門用語は国際照明委員会規定に従った意味解釈を含む約2300語を掲載いたしました。

本書「歯科の色彩用語—用語委員会編」は、当初日本歯科色彩学会会員へ配布する予定でした。しかしこれまで用語編集委員は故潤田和好先生以来ボランティアで行って参りましたが刊行にあたりまして冊子価格を設け一般販売と会員販売とすることを検討いたしました。

印刷と装丁およびコンピュータによる用途など計画した結果、下記価格案としました。

本書内容

体裁：A4判印刷、約2300語彙(対応英語、A4 200ページ程度)

CD付き FileMaker Pro5.0以上

Microsoft Excel形式

予定販売価格 一般・非会員 5,500円 送料別 5冊以上(送料無料)

会員 3,000円 送料別 5冊以上(送料無料)

但し申込み期限 平成16年12月末日 期限過ぎの場合一般価格扱い

販売予定日 平成16年10月末 予定

以上ご報告と本出版価格について、会員の皆様にご意見を賜れば幸いです。

平成16年9月13日

用語編集委員会

代表委員 元呑昭夫

ご意見等は10月10日までに下記宛お願い申し上げます。

カラーランド研究所内 日本歯科色彩学会・用語編集委員会担当

TEL 048(811)1911 FAX 048(811)1912

mail- jacd1@colorland.co.jp

編集委員会報告

1. 編集委員会の開催

3回：平成15年12月10日、平成16年1月28日、平成16年3月1日

2. 「歯科の色彩」⑩（第10巻 第1号通巻第11号）発行

発行日：平成16年3月31日（印刷：平成16年3月24日）

原著論文5編、総説論文1編、総ページ86ページ

3. 原著論文掲載料

「歯科の色彩」⑩よりの原著論文掲載料と抜き刷り単価の計算法を見直しました。文中の図のうち 写真扱いになるものがございます。印刷の都合上のことですので、印刷終了後でないとはわかりません。予定される原著論文掲載料と多少前後した請求額になることが予想されます。ご投稿いただく先生方のご理解を賜りたく存じます。

4. 広告料

現在の広告料金は、以下の通りです。

広告料金（税抜き）表紙（1頁単位、先着1社のみ）70,000円（カラー、白黒いずれも可）
後付カラー（1頁単位で受付）70,000円 後付白黒（1頁）50,000円
後付白黒（1/2頁）30,000円

賛助会員等からの広告を募集いたしております。

5. 次号「歯科の色彩」⑪の発行予定

次号の機関誌の刊行予定です。2004年11月8日（月）投稿申し込み締め切り、

2004年12月6日（月）原稿締め切り、12月20日頃 初校出し 年末年始期間に校正を

2005年2～3月に発行というスケジュールを予定します。ふるってのご投稿お待ちしております。

6. その他 検討事項

総会・学術大会のプログラム・抄録集の「歯科の色彩」Special issue 化細目

過去の学術大会における演題の公開法 投稿用紙はB5からA4に変更。

中国第5届口腔色彩新技术研讨会に出席して

片山 伊九右衛門

2004年8月9日～13日、中国新疆ウイグル自治区烏魯木齊(ウルムチ) 蘭州軍区烏魯木齊市総医院口腔科（大会長は夏春明主任）、北京大学人民医院口腔科(主任 高承志)、日本歯科色彩学会の共催で、会場は友好ホテルの会議室で行われた。

首府ウルムチは砂漠の中のオアシスの町で人口80万、ウイグル族、漢民族、ハザク族など13民族が住んでいる。羊を追う遊牧民を想像していたが、女医には青い目の美人が多く、町も大きなビルが立ち並び、気候も暑からず寒からずでした。

日本からは私、元呑昭夫副会長、宮崎隆編集委員長、明倫短期大学下河邊宏功学長、渡辺高志秘書の5名が出席しました。丁度お盆時期で飛行機の予約が取れにくく、皆様には声をかけることができませんでした。

8月9日18時00分からウルムチ友好ホテルで前夜祭が行われ、あいさつもそこそこに、乾杯の連続、ダンスやら踊りやらで遅くまで賑った。

翌10日8:30、友好ホテル7階会議室で烏魯木齊市総医院院長、大会長夏春明主任、日本歯科色彩学会代表会長、北京大学口腔医学院王新知補綴教授、軍医第四大学口腔医学院郭天文補綴教授らのあいさつで始まった。

参加者は中国全土からで北京、西安、広東、江西、河南、アモイ、深圳からの参加が見られた。多くは旧友であった。年々口腔色彩について認知が深まった感じがした。

日本側講演については、宮崎隆教授の「Fabrication of ceramic restorations using a dental CAD/CAM machine」、元呑昭夫カラーランド研究所長が片山伊九右衛門、高承志の名を入れて、「人体色測定調査一皮膚・粘膜・歯冠」を。続いて片山伊九右衛門が、「シェードマッチングについて」講演をした。下河邊先生は翌日同じ会場で、卒後研修会教育講演として、「歯科関係の指先技術向上指針」を話されました。

中国側は、シェードマッチング、陶材、コンポジットレジンなどの色彩、シェードガイド、色差の分析、漂白関係など33題に及んだ。ポスターセッションは、まだ中国では多くは認められず、口演でなければ参加できないそうでした。

会の進行は例に漏れず、漫漫で日本に留学した高承志氏の指図がなければ、どうにも進行できないのは覚悟したとはいえ、同行日本人には恥ずかしい思いをした。

今回の旅行は北京大学医局員団体に同行したもので、敦煌の砂漠、有名な莫高窟、寝台列車の旅、南山の乗馬登山、天山山脈の雪、トルハンの天池、孫悟空誕生といわれる火炎山の見物や、豊富な果物や特色あるパンやジンギスカン料理を飽満した。

特に我々の案内人である、伊朮努朮女医は元女優とかの超美人で、ドライブでは歌を、宴会では踊りを披露してくださり、買い物は値切りの名人であった。感謝申し上げます。学会の合間には病院見学も行われた。医局員の多さには羨ましい限りでした。

今回、一緒にいただいた学会参加者。学会開催にご協力を頂いた関係各位に感謝申し上げます。詳しくは雑誌「歯の色彩」□に下河邊先生が投稿くださる予定です。来年第6回会議には、中国一の名所、四川での開催を希望しておきました。